

令和5年度 香蘭女子短期大学

外部評価委員会 報告書

香蘭女子短期大学 外部評価委員会

1. 総評

今回の外部評価は、「令和4年度 香蘭女子短期大学自己点検評価報告書」に基づいて資料が作成され、その報告と外部評価委員からの意見、評価票による評価によって実施された。

外部評価委員会の資料は「建学の精神」、「各学科の教育目標・目的」、「各学科の学習成果」、「検定資格取得状況」、「入学者選抜・募集状況」、「就職状況」、「各学科の特色ある取り組み」で構成した。2023年8月21日（月）に香蘭女子短期大学内で開催し、評価委員全員が出席した。

各評価委員からの助言・意見は的確であり、今後の短期大学運営にとって重要となるものが多く改善に励みたい。

2. 外部評価委員会の中での助言・意見

・評価できる点

○ファッション総合学科の課題解決能力を強化されている点や社会を見せている実践的な教育がよかった

○ライフプランニング総合学科の自分の適性を見極めることができる点がいい

○出前講義や南区子ども大学・子どもプラザなど地域に積極的に行っているところが評価できる。学生が視点を外に向けていける

・改善を要する点・今後の展開

○日本の文化、特に「漫画」や「アニメ」などは海外からも評価されており、要求されている部分である。このようなものは企業も今取り込もうとしている部分であるため、将来的には学びとして取り入れることを考えてもいいのではないかな。

○ここ5年ほどで学生の気質が急激に変化している。保育園では短大生を採用して一緒に働いている中で感じる事としては、真面目でやる気はあるが、耐性という部分では足りない部分がある。建学の精神にある困難を乗り越える力は今後の少子化を含め重要になる。

○働く際には規律が必要で、自分主体になりすぎないように、グループワークなどで様々な意見を聴いて揉まれることが必要である。

○現在、保育園では食品アレルギーへの対応が非常に大変である。食育の部分の教育が現場で生きる。

○ファッションに関していえばフランス・イタリア・スペインなどヨーロッパの各国でも全然違うため、若いうちに海外研修等で本場のファッションを経験させてほしい。

○SDGsに企業も力を入れている。食に関する取り組みは企業も積極的に行っているため、食物栄養学科でも将来を見据えて取り組んでいながらビジネス的な展開も考えてもいいのではないかな。無農薬やオーガニックなども取り入れてはどうか。

○学科が4つあるため、今後の募集などに関しても各学科で連携を取りながら香蘭女子

短期大学としての総合力を見せるのも一つの方法である。

○大卒を採用するのは大企業で、中小企業が今求めているのは専門学校や短大生で即戦力になる人材である。社会に早く出てほしいという意味では、今後よりニーズが高くなる可能性はある。今、問題になっているのは早期退職であり、早期退職すると次を見つけることが難しくなる。そのあたりの状況も教育してあげてほしい。

○企業がジョブ型になっているため、自分がどのようなスキル・資格を持っているかを意識させる必要がある。

○どの業界で IT スキルは必要になるため、Word・Excel の知識は最低限でも身につけるカリキュラムである必要がある。

○学生の気質の変化もあり、従来型の募集ではうまくいかない可能性もある。現場で働いている卒業生と高校生の接点を作ったり、卒業生を高校訪問に連れていったりなどの工夫はどうか。特に保育学科では高校生よりも中学生などから意識を持たせることが必要。プラスのイメージを広報していくことが大切である。

○ここ数年のコロナの影響は大きい。コロナ感染者の流行期でも授業はできていたが、アクティブラーニングなど生徒間での活動は行えない状況があった。生徒間でのコミュニケーションがあまり取れていなかった。そういった状況により自分の将来を定めきれない学生も増えたため、4年制大学への進学という形で先延ばしするモラトリアム的な考えの生徒も多くなったのではないか。

○ここ 10 年で高校生の SNS による発信や情報収集に対する考え方が全く変わった。インスタグラムなどで学生が充実した姿を投稿するとよい。特に自治活動やサークルの様子などをアップする部分が弱い。高校生は思っている以上にインスタグラムを見ている。

○学生と保護者に人気のある学校が「選ばれる学校」である。海外展開などをすると、卒業後のステップアップが期待され、よりよくなるのではないか。リカレント教育にも力を入れていくとよい。

○女性は就職後も福岡から離れないケースも多い。福岡もインバウンドにより英語を使う機会が多いため、今後は英語教育にも力を入れた方がいい。

○福岡市は人口も多いが、定員割れが起きている保育園もある。現在保育士不足ではあるが、少子化もあり今後の保育園に対する募集は少なくなる可能性が高い。

○人間関係で辞めてしまうケースが多い。裕福な環境もあるが、働かなくても実家などでなんとかなると思っている人も多い。技術だけでなく人間力をつけていく必要がある。

3. 評価票による評価

評価点：A-特に優れている（5点）、B-優れている（4点）、C-普通（3点）、D-優れていない（2点）、E-要改善（1点）

【建学の精神、各学科の教育目標・目的を含む総合評価】

	委員	委員	委員	委員	平均
評価点	A	A	B	B	----
点数	5	5	4	4	4.50

（評価内容）

○建学の精神「いかなる困難な場にあっても」乗り越える力が現在最も求められている。自身の成長の為、切磋琢磨しないといけない。保育学科の「三つの心を育む」教育目標・目的は自分自身の自立と「利他の心」を育むために今後、益々必要と考える。

○「アクティブ香蘭」すばらしい。社会や地域と活動をする。大学生より専門性が高い短大は企業や社会が求めている。

○全学科を通して素晴らしい教育活動が展開されていると考える。

○建学の精神のもと、専門的知識を育むだけでなく、様々な取組みで、社会性を備えた幅広い能力や人間性の育成を目指している姿勢が感じられる。

（改善点）

○時代、価値観、国際情勢が激変している現在、次の時代に求められる能力・資質を常に教職員で考え、議論を尽くし、社会の役に立つ人財の育成と自立した女性の育成に今後も一層、努めてほしい。

○ボランティア活動等の社会で学ばせる場の提供（評価を与える）。海外への学校進出。学生たちにストーリーを見せてくれる学校へ。グローバル社会、留学生との交流、IT スキル強化、英語力強化 等。

○改善点ではないが、今後、さらに内部（現役学生）への魅力的な教育活動のアピールと外部（高校生、高校生の保護者、現役生の保護者、地域の方々、起業、様々な事業所、官公庁、学校等）に日々の充実した教育活動の取り組みをアピールしていくことが大事になってくると考える。

○今後も、様々な機会やツールを活用し、優れた取り組みを戦略的に広報していくことが望まれる。

【入学者選抜・募集状況】

	委員	委員	委員	委員	平均
評価点	B	B	C	C	----
点数	4	4	3	3	3.50

(評価内容)

○全体的に収容定員充足率が下がっていることが、特に保育学科が年々下がっていることは課題です。学生確保に向けた取り組みは満遍なく実施されているが、従来型からの見直しと抜本的な改善が必要と考える。

○もっと力を入れる。「香蘭＝ファッション」イメージが強い。少子化が深刻な状況だがもっと募集に力を入れてほしい。一般社会人のリカレント教育も取り入れる事もできます。

○全国的な18歳人口の減少に伴い、入学者数の減少傾向、いずれの学科も定員未充足であることがやはり気になるが、昨今の背景を考えると、学生確保に向けた取り組みはなされていると考えられる。

○様々な工夫をしながら学生確保に取り組んでいる様子はどうかがえるが、結果に結びついていない。南区おおはし子どもプラザの運営を始めたことで、幼児期の保護者への認知が広がっていると思われる。

(改善点)

○保育園・幼稚園・認定こども園との一層の連携。経営者との情報・意見交流。現場で働いている卒業生の活用。たとえばオープンキャンパスのボランティアや高校訪問時の同行など。新たなネットワークの構築や市教育委員会との連携が望まれる。

○総合的に募集を増やす。各学科をPRできる活動が必要。募集→就職先を多く明示・打ち出した広告・PR。高校生向けの出前授業は効果がある。

○全学科、学生確保に向けた取り組みが必要であるが、特に保育学科と食物栄養学科の取り組みが求められる。両学科とも本当に素晴らしい特色を持った充実した育成プログラムを組んでいるので、学生の生き生きとした雰囲気とせっきやくの内容を、さらなる広報活動の充実によりアピールできたらと思う。その際、近年はSNS等による情報発信が効果的であると考えられる。殊に公式インスタグラムで先に挙げた保育学科と食物栄養学科の努力が見られるが、学生一人一人がより生き生きとしている内容であるか、更新頻度等で滞っていないか等、改善の余地はあると考えられる。また、地域別入学者数と割合で、そもそも少なかった佐賀県がさらに厳しい状況であることが客観的に見て取れる。現在なぜそうなっているか、原因を探ることとアプローチの方法を考え直す必要もあるかもしれない。

○引き続き、地域貢献をはじめ、様々な形で近隣住民の認知を得る取り組みを進めるとよいと思われる。

【就職状況】

	委員	委員	委員	委員	平均
評価点	A	A	A	B	----
点数	5	5	5	4	4.75

(評価内容)

○就職支援体制はよく整っているし、専門就職率は高い。特に保育学科 100%に近く素晴らしい。又、専門性を活かして保育・教育関連の施設に入職していることは特筆すべき点だと考える。

○企業全体に人材不足。売り手市場(中途採用も含む)で就職率は高いが転職率も高い為、定着するための人材教育を。(社会人としての考え方・キャリアデザイン・ライフデザイン等)

○いずれの学科も素晴らしい成果を上げていると考えられる。

○専門就職に限らず、きめ細かかに就職支援を行っていることがうかがえる。保育士と栄養士を重ねて取得するなど、意欲のある学生が学科を超えて複合的に学ぶことができるのは強みである。

(改善点)

○近年、保育園・幼稚園・認定こども園の定員割れの状況があり、福岡市においても保育所定員を下げる保育園が増加している。行政も新たに施設を造る計画がないので、保育士不足の潮目が変わる恐れがある。学生の質の向上が必要と考える。

○世の中はジョブ型(ジョブ人)の流れでキャリアを積んでいく方向である。社会の動き、情報収集力→分析力→仮説を立てられる学校側の認識が必要である。

○特にないが、卒業生で活躍(生き生きと活動)している方々と現役生が交流する場がより多くあればと思う。そしてその場の状況や雰囲気等を公式Instagramや Youtube 等にあげることで募集状況の改善にも繋がると考える。

○地域住民など、学生が日頃から外部の人々と触れる機会を増やすことで、社会性が養われ、ますます学生がキャリアイメージを持ちやすくなると思われる。

【各学科の特色ある取り組み】

	委員	委員	委員	委員	平均
評価点	A	A	B	B	----
点数	5	5	4	4	4.50

(評価内容)

○「さまざまな保育現場において実践家として活躍できる」力を育成するため、様々な取り組みをされていることは高く評価できる。特に現場に入ったときに求められる実践力を養う科目を開設された点は評価できる。又、「強みを持った保育者の育成」は他学科とのコラボで先進的な取り組みであり、香蘭女子短期大学として総合的な強みを活かされると考える。

○努力されている。保育学科の委託運営は生きた教育と言えるではないか。ライフプランニング総合学科はとりわけITスキル、英語、マネジメントスキル等を取り入れて学生の育成を強化することが望まれる。

○いずれの学科も建学の精神を根幹に、しっかり教育されている。特に検定・資格取得に対する取り組みが顕著である。

○ファッション総合学科については、香蘭女子短大を象徴する学科として、常に外部に目を向けた取り組みが優れている。食物栄養学科は、地域住民に向けた料理教室などを継続的に行っていることや、「子ども食堂」などの活動が評価できる。保育学科では、子どもプラザの運営を始めたことで、今後ますます学生に与える好影響が期待される。ライフプランニング総合学科では、多様な学びを選択することが可能という特異性が活かされた取り組みが行われ、魅力的である。

(改善点)

○実際に保育に携わっている主任リーダー、先輩から話を聞いてはどうか。たとえばキャリアプログラムの回数を増やし、今後求められる能力、資質に早く気づいて授業に臨み、自学する。また、簡単ではないかもしれないが、メンタルを強くする為、心理学の手法を取り入れ指導に活かす。

○資格は社会に出て活かすものですが、今は個人へポータルスキル（どこに行っても活かせるスキル）が必要とされています。

「令和5年度 香蘭女子短期大学 外部評価委員会」 出席者リスト

【外部評価委員】

社会福祉法人 しあわせの星保育園	園長	井上 正志
株式会社 ビジネスリファイン	代表取締役	大野 祐子
福岡県立 太宰府高等学校	校長	平山 篤
福岡市南区役所 総務部企画振興課	課長	吉崎 謙作

【その他会議出席者】

香蘭女子短期大学	理事長・学長	坂根 康秀
	ファッション総合学科長	岡田 絵梨奈
	食物栄養学科長	宮崎 貴美子
	保育学科長	濱田 尚志
	ライフプランニング総合学科長	遠矢 幸子
	事務局長	篠原 慶朗
	アドミッションオフィス長	原 康久
	学生支援課 キャリア・生活支援担当課長	青木 信二
	IR 委員長	坂根 潤樹
	総務・IR 課 課長	宮原 浩一